

赤潮発生状況

吉田和貴・池脇義弘・加藤慎治・平野 匠

平成30年に徳島県沿岸域で発生した赤潮について、公式に記録することを目的とする。

方 法

漁場環境調査等における観測や漁業者からの聞き取りを元に、赤潮の発生期間、発生海域、赤潮構成種及び漁業被害についてまとめた。

結果及び考察

表1に平成30年の赤潮発生状況、図1に赤潮発生件数と被害件数の推移、図2に赤潮発生海域をそれぞれ示した。平成30年は5件の赤潮が発生した。赤潮を形成した種は、渦鞭毛藻の*Alexandrium tamarense*, *Noctiluca scintillans*, ラフィド藻の*Chatonella antiqua*, *Heterosigma akasiwo*, 繊毛虫の*Mesodinium rubrum* の計5種だった。*A. tamarense*による赤潮は平成3年以来27年ぶりで、観測開始以降2度目となった。海部郡での赤潮発生は初である。この赤潮発生期間中に天然魚および畜養魚の斃死が報告されたが、因果関係は不明であった。また、4月2日に海部郡で発生していた赤潮について、瀬戸内海区水産研究所に種同定を依頼したところ、*A. tamarense* に混じって1割程度*A. leei* が存在していたことが明らかとなった。

C. antiqua は最高細胞密度59.2cells/mlで、海面の着色はみられなかったが、細胞密度が県の警報発令基準値を超えたため、赤潮として報告した。*C. antiqua* による赤潮の発生は平成15年以降15年ぶりの発生となった。

近年の赤潮発生件数は、昭和40年代～50年代に比べて大幅に減少したが、今年度のように10年以上赤潮が発生していない種が突如増殖することもあり、養殖漁場を中心とした観測や情報収集を継続する必要がある。

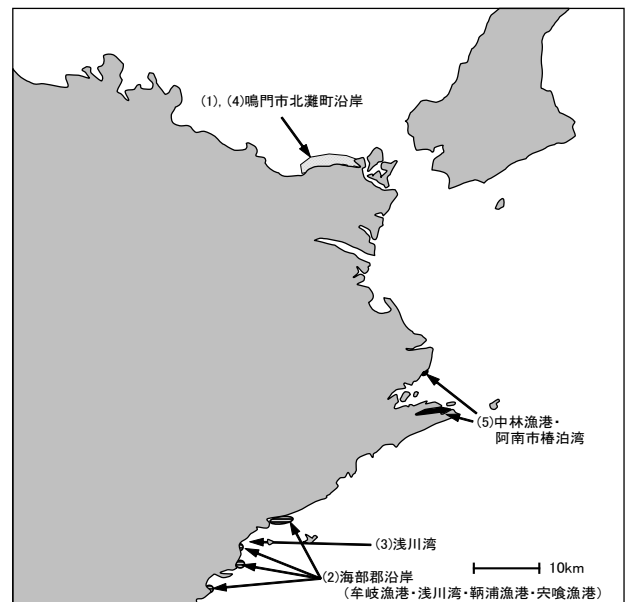


図2. 赤潮発生海域。図中の番号は表1に示した赤潮の番号を示している。

表1. 平成30年の赤潮発生状況

番号	発生期間	日数	発生海域	赤潮構成種	漁業被害	最高細胞数 (cells/mL)
1	3/28～4/25	29	鳴門市北灘町沿岸	<i>Noctiluca scintillans</i>	なし	不明
2	3/30～4/8	10	海部郡牟岐町～海陽町沿岸	<i>Alexandrium tamarense</i>	不明	1,600
3	5/28～6/3	7	海部郡海陽町浅川	<i>Heterosigma akasiwo</i>	なし	12,800
4	7/15～7/18	4	鳴門市北灘町沿岸	<i>Chatonella antiqua</i>	なし	59.3
5	11/29～12/5	7	中林漁港周辺域、椿泊湾	<i>Mesodinium rubrum</i>	なし	不明

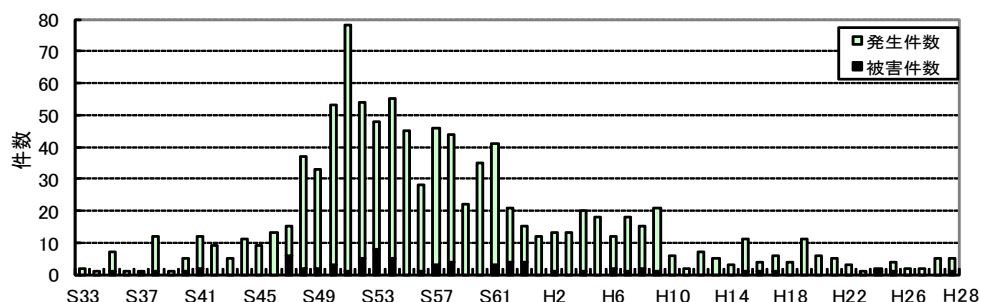


図1. 赤潮の発生件数と被害件数の推移